

川崎市議会議員 いわくま ちひろ

加速する英語教育

民進みらい
川崎市議団
連載No.92

これまで英語教育の環境整備について議会で議論を重ね、小中学校におけるALT（外国語指導助手・外国人の英語講師）の拡充等を求めてきました。

平成29年度予算においては、徐々にALT7名が増員、計11名体制となり、私が従前より求めていた、**中学校において週1回ALTと一緒に英語を学ぶ**

時間確保するべきという提言が実現したことになります。

今回の予算措置については評価するものの、そこで終わりではありません。私が危機感を募らせる理由として、現在国は、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」「次期学習指導

要領（2018年先行実施予定）」の中において、現在実施されている**小学5・6年生の外国語活動を外国語科に教科化する**とともに、**外国語活動を小学3・4年生に導入**、また中学校卒業段階では、英検3級程度以上、高校卒業段階では英検準2級程度を到達目標として設定しています。

それに従つたならば、長期的展望に立つた際、今後急激に加速する英語教育を考えると、現段階から学校現場レベルでの整備を急ピッチで進めなければ

国が唱える目標を達成することは困難になり、児童生徒の負担と教員の負担は増すばかりになってしまいます。

国の思惑とは裏腹に、文科省の「平成28年度・英語教育改善のための英語力調査事業報告」では、英語が好きではない生徒が昨年度と比較し微増しています。習い事ランキングでも常に上位に居る英語教育ですが、子どもたちの本音は「どうでしょう」か？

私は、英語教育を議会で論ずる際、「英語はあくまで「コミュニケーション」の道具。必要なことは、日本の伝統・文化・歴史を正しく理解した上で英語を使わなければ、外国人が日本について一番興味や関心がある内容を正確に伝えられなく」と唱えています。

英語は、異文化間で会話ができる国際共通語です。2020年には、東京五輪も開催されます。児童生徒のみならず外国人と「コミュニケーションをとったり自らの視野を広められるような英語教育整備に努めて参ります。



川崎市議会議員 いわくま ちひろ